

(公印省略)

13病防第14号の11
平成14年2月28日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、病害虫発生予報第12号を発表したので送付します。

平成13年度病害虫発生予報第12号
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	菌核病 葉かび病 灰色かび病	並 並 並	並 並 並
冬春ナス	すすかび病 うどんこ病 灰色かび病	多い 並 並	多い 並 並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病	やや少ない 並 やや多い 並	やや少ない 並 やや多い 並
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 並 並	並 並 並 並
野菜共通	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	並 少ない	並 少ない

【野菜】

1 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均3.3%（平年：1.5%、前年：0%）であり、一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

イ 肥料切れにならないよう肥培管理を行う。

ウ かん水過多にならないように注意する。

エ 病勢が進展してからでは防除が困難であるので、発病前または発病初期のうちに防除を徹底する。

オ 発病葉は早めに除去し、ハウス外で処分する。

カ 防除薬剤については県野菜病虫害防除基準を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病虫害についても同様）

2 トマトの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病果率は平均0.3%（平年：0.1%、前年：0.1%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 比較的低温で多湿の場合に発病が多いので、ハウスの換気を図り、加温機や除湿機を運転するなどして多湿を避けることが最も重要である。

イ 茎葉が重なり合わないよう誘引・摘葉などの管理作業を適切に行い、通気性をよくする。

ウ 発病後、菌密度が高くなると防除が難しいので、発病初期のうちに防除を徹底する。

エ 被害果、被害茎葉や不用な花弁は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ ベンズイミダゾール系剤（トップジンM、ベンレート）、ジカルボキシイミド系剤（ロブラール、スミレックス）あるいはジエトフェンカルブを含有する薬剤（スミブレンド、ゲッター）は、いずれも連続使用すると薬剤耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ・テ・ション散布を行う。

3 ナスのすすかび病（平成13年11月30日発表の注意報第2号参照）

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均30.5%（平年：21.3%、前年：24.5%）であった。

イ 例年、1月から発生が増加していく傾向にあり、本作で発生程度が低かった調査ほ場でも増加傾向にある。

ウ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 本病は薬剤防除だけで病勢の進展を抑えるのは困難なので、換気を行い、多湿にならないよう管理する。ただし、急激な温度・湿度変化は避ける。

ウ 草勢の低下で発病が助長されるので、着果量の調節や、適切な肥培管理を行う。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・ション散布を行う。

4 キュウリのべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均7.7%（平年：13.3%、前年：16.8%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 例年、1月から発生が増加していく傾向にあるので、現在発生していない場合でもほ場内をよく観察し、初期防除に努める。

イ 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

ウ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

エ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・ション散布を行う。

5 キュウリの褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均5.8%（平年：0.2%、前年：0%）であり、発生程度は、ほ場により差がある。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 近年、本病は増加傾向にあるが、一旦多発すると防除が困難であるとともに、次作でも発生することも多く、少発生のうちに防除を徹底する。

イ 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

ウ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

エ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・ション散布を行う。

6 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病株率は平均0.6%（平年：1.1%、前年：0.6%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面を随時観察し、早期発見に努める。

イ できるだけ不要な葉は葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テーション散布を行う。

7 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 1月5半旬調査の結果、寄生株率は平均2.4%（平年：3.5%、前年：4.5%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 例年、2月以降から発生が増加していく傾向にあり、多発生後は防除が困難なので、発生状況をよく観察し早期防除に努める。

イ 摘葉された葉に寄生しているハダニは、摘葉後急速に移動するので、ほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し、処分する。

ウ 本害虫の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年)	発生予想 (平年)
茶	カンザワハダニ	少ない	やや少ない

【茶】

- 1 カンザワハダニ
 - (1) 予報の内容
 - ア 発生時期：平年・前年並
 - イ 発生量：平年よりやや少なく、前年並
 - (2) 予報の根拠
 - ア 2月5半旬調査の結果、茶樹表層における寄生は認めなかった（寄生葉率 平年：3.3%、前年：0.4%、50葉当たり寄生虫数 平年：4.7頭、前年：0.3頭）。
 - イ 茶樹裾葉においては、一部ほ場で寄生が認められ、産卵が始まっている（雌成虫発生ほ場率 8.3%、前年：19.2%）。
 - ウ 気象予報では、3月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 現在のところ、一部ほ場で産卵が見られる程度であるので、雌成虫の産卵が本格的になる前（平坦地域では3月5～15日頃、山間地域では3月15～25日頃）に防除を徹底する。
 - イ 防除薬剤は「平成14年度茶病虫害防除基準」を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。

3月の気象予報（1か月）

（予報期間 2月23日～3月22日）

2002年 2月22日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年より多い可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	30	50	20
日照時間	20	30	50

- < 1週目の予報 > 2月23日～3月1日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 3月2日～3月8日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 3月9日～3月22日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量（mm）	日照時間（h）	1週目	2週目	3-4週目
8.9	93.5	132.7	7.6	8.5	9.8

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び電話番号は下記のとおりです。

ホームページアドレス

www.jpnpn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）